

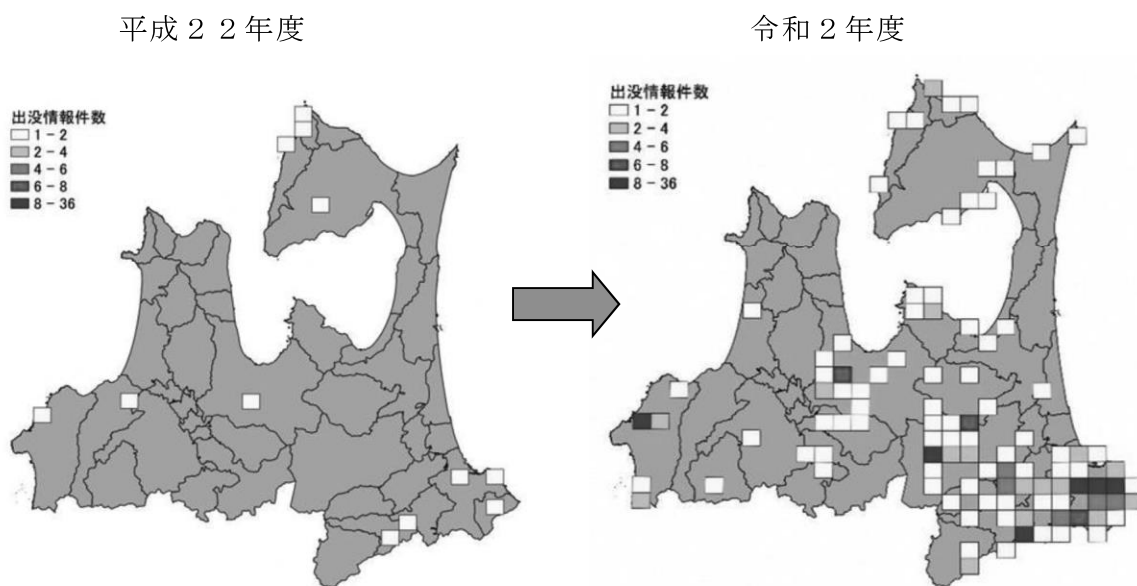
白神山地周辺におけるニホンジカの誘引効果の比較検討

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 中和 範雄

1 はじめに

日本全国で被害が深刻になっているニホンジカが、青森県でも増加する傾向にあります。その中において、白神山地周辺でも、今まで見かけられなかったニホンジカが、近年見かけられるようになりました。

なお、現段階では白神山地周辺地域（青森県側）での密度が低いことは環境省、青森県の調査により判っていますが、増加する傾向にあります。そのため、近い将来想定されるニホンジカの捕獲、駆除を行うにあたって、どのような誘引物を使用すれば効果的に誘引が出来るのかを検討し、初期段階での予防的対策をとるためのデータが必要であると考え、過去に他の機関や地域で行ったニホンジカ誘引試験の結果を参考に、誘引効果があった誘引物を設置し、今回の試験を行うこととしました。



青森県第二種特定鳥獣管理計画

2 調査方法

(1) 誘引物の選定

実際に誘引試験を実施するにあたって、既に誘引効果が確認された先行事例を参考に、調達の上易さなどを考慮して以下の5種類の餌を選定しました。(表1参照)

表1 先行事例

先行事例の機関名	牧草	鉾塩（ユクル）	ハイキューブ	米糠	牛糞
長野県と信州大学	◎				
岐阜大学と岐阜県		◎	○	○	
山梨県森林総合研究所			○		
三陸中部森林管理署		○			
赤谷森林ふれあい推進センター		◎			
千葉森林管理事務所			○		
長野県の有識者（ヒアリング）					○

牧草



（イネ科とマメ科の草）

鉾塩（ユクル）



（塩分と鉄分を配合したシカ専用の誘引剤）

ハイキューブ



（マメ科のアルファルファヘイをキューブ状に固めた物）

米糠



（米の胚芽）

牛糞



（ミネラル分を含んだ牛の糞）

（2） 設置場所選定

設置場所は、森林生態系への影響が懸念される哺乳類の状況把握を目的とした、『中・大型哺乳類調査』における定点カメラの観測地点で、令和2年度、令和3年度に、ニホンジカが撮影された実績のある箇所道路から近く管理し易い箇所の中から、A試験地とB試験地を選定しました。

A試験地は、青森県西津軽郡深浦町大字広戸 広戸山国有林3048林班て3小班で、調査期間は、7月から12月まで行いました。

B試験地は、青森県西津軽郡深浦町大字大間越 イラ川山国有林 3104林班ろ2小班で、調査期間は、3月から12月まで行いました。

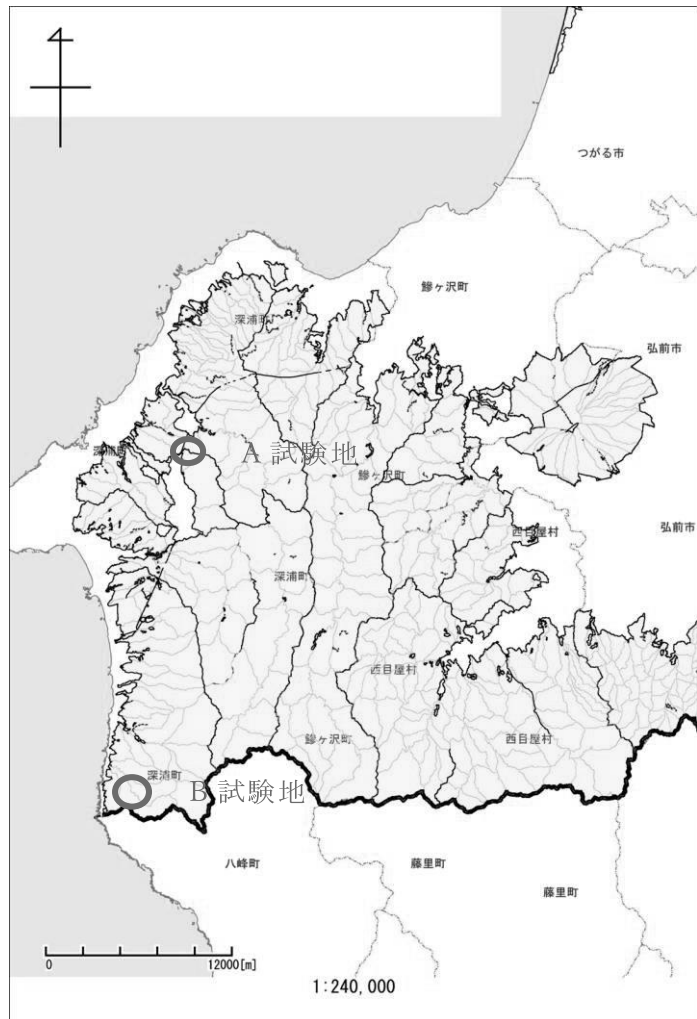
(3) 設置方法

A試験地に4種類の餌を2m程度の間隔を開け、餌箱をランダムに置きました。

自動撮影カメラの2～4週間毎のデータ回収時に餌を補給又は交換し、餌箱の並び順を都度変えました。

B試験地に牛糞を2つに分けて置きました。

牛糞の片方は、牛糞に含まれる糞汁をより出すために、週1回程度人為的に水をかけ、常に湿っている状態にしました。もう片方は、水をかけずに天候まかせにしました。



A 試験地



B 試験地

3 結果

今回の試験では、目標としたニホンジカは、A試験地、B試験地共に撮影されませんでした。

なお、A試験地で撮影されていた哺乳類は、ツキノワグマ、ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、ニホンカモシカなど9種類他不明哺乳類でした。特にツキノワグマは多く撮影されていました。

表 2

A 試験地で撮影されていた動物

種名/月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ニホンジカ							0
ニホンアナグマ		2	1	8	3		14
ニホンイタチ				1	1		2
ニホンイノシシ					1		1
ニホンカモシカ	1		1		1		3
ツキノワグマ		17	2	1			20
ニホンザル				1			1
ホンドタヌキ		8	1	5	5		19
ハクビシン		2					2
リス				1			1
不明哺乳類		3					3
ハト				1			1
種数計	1	5	4	7	5	0	22
個体数計	1	32	5	18	11	0	67

B 試験地で撮影されていた哺乳類は、ホンドタヌキ、ネズミ、ウサギ、ニホンアナグマなど 9 種類他不明哺乳類でした。

表 3

B 試験地で撮影されていた動物

種名/月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
ニホンジカ											0
ニホンアナグマ				2	1		1		1		5
ウサギ		1	8	1							10
ニホンカモシカ								2	1		3
ホンドキツネ										1	1
ツキノワグマ					1						1
ニホンザル	1										1
ホンドタヌキ			1	1		1	4	7	3		17
ネズミ		5	5	2	1				1		14
ハクビシン									1		1
不明哺乳類		1	4	2	2	3	2		1		15
キジバト			3	2							5
ヤマドリ							1				1
鳥		15	5			1					21
種数計	1	4	6	6	4	3	4	2	6	1	15
個体数計	1	22	26	10	5	5	8	9	8	1	95

4 考察・まとめ

今回の調査でニホンジカが誘引されなかった要因を考えると、青森県全体ではニホンジカの生息密度が高くなってきてはいますが、日本海側の津軽地方では他の地域と比較すると生息密度が低いので設置した箇所に誘引されなかったのではないかと考えられます。しかし、密度は低いながらも増加する傾向にあり、今後、食害等の被害が生じることが懸念されます。そこで、今後も令和 4 年度の中・大型哺乳類調査の結果などを参考に試験地を再検討して調査を継続していきます。

また、周辺にはヒメアオキなどの豊富な植生（餌）があるので、設置した餌にニホンジカの関心がいかなかったと考えられます。

更に、今回の試験では、概ね2～4週間ごとに誘引の餌を補充、または、取り替えるなどの管理をしましたが、餌は木製容器に入れたまま雨ざらしの状態、餌は劣化、腐敗してしまっているものもあり、これも誘引されない一つの要因と考えられます。今後は、餌の設置の仕方、交換の頻度などの管理の仕方も改善します。

牛糞試験については、ニホンジカが、これまで存在しなかった牛糞を警戒していることも考えられますので、設置した餌に慣れさせることも含めて試験を継続していきます。

今回の調査では、ニホンジカ誘引の目的で設置した米糠にツキノワグマが誘引されていました。過去の神奈川県丹沢山地での食性調査でクマの胃の内容物にニホンジカの消化管・皮といった動物性食物が確認されるなどの事例が数例確認され、ニホンジカがツキノワグマを警戒していることが示唆されることから、今後、ツキノワグマを誘引しないために、米糠の設置について検討します。

5 今後の展開

令和4年に、深浦町内の中・大型哺乳類調査でぬた場でのぬた打ち行動ととれる行動が確認されています。

11月に撮影されたオスの行動ですので、土と自分自身の尿が混ざったものを体に塗りたくり自分をアピールする繁殖期特有の行動とも考えられます。これは、近い将来、白神山地周辺地域でもニホンジカの繁殖があり得ることが示唆され、危惧されます。



以上のことから白神山地周辺地域では、ニホンジカの生息密度は低い状況ですが、徐々に増加する傾向にあることからニホンジカの捕獲等を確実に実施して対策を有効に機能させるためには、今後の調査方法としては、設置場所や餌の管理を徹底して継続的に調査を実施していきます。

6 参考文献等

- ① 環境省（2020）
全国のニホンジカ及びイノシシ生息分布調査について
- ② 青森県（2022）
青森県第二種特定鳥獣管理計画（第2次ニホンジカ）
- ③ 江成 広斗・江成 はるか・加藤 亜沙美
東北野生動物管理研究交流会（2020）
分布拡大初期にあるシカ個体群の低コストモニタリング手法の開発
- ④ 中山 恵・小林 和夫・平沢 博一・寺田 直哉・竹田 謙一
長野県、信州大学（2009）
シカ食害が発生している公共育成牧場の対策と効果
- ⑤ 池田 敬・白川 拓巳・鈴木 正嗣 岐阜大学、岐阜県（2018）
5種類の誘引餌によるニホンジカとイノシシへの誘引効果の比較
- ⑥ 飯島 勇人・大地 純平 山梨県森林総合研究所（2016）
ニホンジカの誘引に適した餌の検討
- ⑦ 金田 直幸・米澤 晃司・門脇 希 三陸中部森林管理署（2018）
ニホンジカ捕獲の取組について（森林・林業技術交流発表集）
- ⑧ 齋藤 一広・松井 宏宇・坂庭 浩之 関東森林管理局 他（2018）
低密度下におけるニホンジカの誘引及び捕獲試験
- ⑨ 江口 恵・吉田 淳久 千葉森林管理事務所 他（2018）
房総地域におけるニホンジカ生息状況調査
- ⑩ 南野 一博 北海道立総合研究機構（2018）
春～秋季に給餌によってエゾシカを誘引できるか？実験林における誘引試験の結果から
- ⑪ 広谷 浩子・長縄 今日子 神奈川県（2010）
神奈川県丹沢産ツキノワグマの胃内容について
- ⑫ 川中 守 熊本県林業研究指導所（2019）
造林地周辺におけるシカ誘引餌の効果比較と季節変化の影響